

令和元年度 第5回 男女平等推進市民会議 会議要録

日 時：令和2年2月6日（木）18:00～19:00

会 場：704 会議室

参加者：名取 はにわ会長・本田 純副会長・各務 豊委員・有賀 千歳委員・飯島 裕子委員・
山本 まゆみ委員・澤田 さなえ委員・森山 義雄委員・坂東 正樹委員

事務局：市民部長・生活文化課長・男女共同参画係長・男女平等推進センターコーディネーター

○議題

- ・議題（1）男女平等推進プランの平成30年度事業進捗状況評価において特に高評価であった事業への表彰

～児童青少年課、生涯学習課、生活文化課に表彰～

- ・議題（2）令和元年度第4回男女平等推進市民会議 会議要録（案）について

事務局：修正箇所があれば2月12日までに事務局にお知らせいただき確定としたい。

- ・議題（3）男女平等推進プランの平成30年度事業進捗状況評価作業振り返り

会 長：事務局より説明を。

事務局：膨大な作業を経て12月に答申をいただき、委員の皆様には感謝申し上げたい。振り返りということで、評価作業をとおして、来年度に向けての改善点等あれば、ご意見を伺いたい。

委員：評価作業時は、なるべく短時間で済むように事前に講評や提言を自分である程度まとめるようにしていた。結果として、他の委員の皆さんの意見を十分含めることができなかつたのではと思う。次回は皆さんのお話をもっと聞いた上で、講評、提言をまとめていきたいと感じた。

委員：個人的には意見交換の場に参加できなかったのは残念だったが、各課と市民会議が向き合っているというのは非常に素晴らしいことだと思う。

委員：すぐにとということではないが、テレビ会議のような形式であれば、もっといろいろな方に参加してもらえるのかなと思った。

委員：なかなか慣れないというか、評価を出すことの難しさを感じた。当然のことだが、各課の報告を読んでも、普段関わりのない課は、文章も読みにくく内容もなかなか入ってこない。例えば従来の自由記述式ではなくて、もう少し細分化というか、例えば去年の反省を受けてこれをやったとか、もう少しこちらの方で書き方を決めた方が、各課が書きやすくなるのかもしれない。また、どうしても新しい取り組みを評価しがちだけれど、地道に継続して取り組むのも1つの評価だと

思う。その辺が書き方、見せ方など工夫できるといいなと思う。

会長：確かに着実に必要なことをやるというのは難しいことであり、大事なことでもある。

委員：やはり市民の1人として、事業に対しての評価、評定の難しさを非常に感じている。評価するに当たって、成果が見えるものと見えづらいものがあり、見えるから評価Aということにはならない。意欲だとか、心を打つものもあり、その辺のところは難しい。そういうことがあることを頭に入れたほうがいいと思う。ただ、第三者的な立場で、わかりやすくするにはやはり違いだと思う。今年度についてはこういうところに視点を当てて、こういうふうにしたということが私たちにより見える形で書いていただければと思う。どうしても文章にするとうまくまとめてしまい、見えづらくなることもあるので、その辺のところも改善できたらよいのだが。

委員：ワーキンググループでの作業ボリュームがかなり大きく、点数をつけることに必死になってしまい、例えば、評価を2日に分けるなどして、もう少し意見をまとめる時間があればとの思いがある。

会長：これまで民間委員の方にご意見を伺ったが、行政の委員の方はどうだろうか。

委員：ワーキンググループでは、率直に目の前で皆さんのご意見を聞けるので、すごく貴重な経験だと思っている。確かに、もう少し時間があれば、いろいろなことを踏み込んで話せるのかなというところもある。また、今頂いたご意見を自分の所管する課に活かしていきたいと思う。

委員：確かに書きぶりで左右されるところはあると思う。民間委員の皆さんは報告の内容が見えづらいということもあるのではないかと感じていた。ただ、この2年で仕組みを変えて、非常にいい形になってきた。先ほどの表彰もそうだが、こういう評価をしたり自己分析をしたりすることによって、自分のことを考えていく、内的にはそういう場にもなる。皆さんの意見が聞けるといったところが非常にありがたいと思う。

会長：現在の計画になってから事業で関わる課が複数ある場合は、まとめて見ることができるようになった。以前と比べると市の仕事が非常に見やすくなった。

委員：審議会というと学識経験者の方たちが圧倒的に多いパターンをよく見るが、こちらの市民会議は市民委員が10人中4人ということでとても多い。大変すばらしい市民会議だと思う。

会長：特徴的なのは、各課がABC評価を出してくるのを、市民会議で意見を出し合ってその評価を変えるところである。同じような取り組みはあるようでない。それだけ行政側との対話が重要で、分からない部分は担当課と意見交換させてもらっている。次第に毎年行政の方の対応も進んできていると感じている。

委員：報告の中身はどんどん良くなっていると思うが、逆にこちらの書いている講評や提言が良くなっていないのではというのがあり、委員の意見を聞いた上で練り

直すということも必要なのかなと反省している。

委員：2年目の評価を終え、1年目の状況と比較してみると、非常に内容が良くなっていると感じる。自分としては昨年度よりも高めの評価をつけている。その背景には、問題の明確化や進み具合が非常にわかりやすくなっていたというのがあり、このような路線でいいのかなと思っている。2年間やらせてもらい、非常に進んできたことを実感している。

委員：この会議に出るまでは、どの課が何をやっているか分からないことも多かったが、ただ、男女平等参画という名のもとにこれだけ綿密に計画を立ててやっていくのが行政なのかと、自分の知っている世界との違いがすごく勉強になった。市民がこれを全部見る必要はないと思うが、これから東久留米市に就職しようと考えている大学生なども含めて、今後リーフレットのようなものを作って、庁内でいろいろな部署が取り組んでいる状況が一目瞭然に見えるものができればいいと思う。

・議題（4）その他

事務局：第10期の市民会議の任期は今年度末をもって終了となる。この2年間、積極的にまた大きな熱量でお取り組みいただいたことを厚く御礼申し上げます。